

対応 1

誤飲・誤食

- ・何を飲んだのか、何を食べたのかを確認する。
- ・NS に連絡し、指示を仰ぐ。
- ・人体に害のないものに関しては、様子を見る。
嘔吐、下痢、意識障害等の確認、水分をとる。

誤飲した物	対応方法
薬物	化粧品等は、成分を調べ確認。 危険性がある場合は病院へ。
紙おむつ	口の中に残っている紙おむつを取り除く。 水分を摂り、様子を見る。 大量に食べた場合は、喉が渇く事がある。
化粧水	<u>エタノールが含まれているもの</u> 症 状：顔が赤くなったり、嘔吐等が見られる。 処 置：少量であれば水分を飲ませて様子を見る。 嘔吐、苦しい状況がある時は、受診する 大量に飲むとアルコール中毒になる危険性あり。 <u>エタノールが含まれず植物性のもの</u> 中毒になる心配はないが、水分を取り様子を見る。
ハンド クリーム	症 状：口、のど、胃等があつくなり、吐き気、 ：嘔吐等が見られる。 処 置：なめた程度であれば水分をとり様子を見る。 上記の症状があれば、すぐに受診する。
芳香剤	症 状：大量摂取すると、嘔気・腹痛等の症状が見られる。 処 置：なめた程度であれば、水、牛乳を取り様子を見る。 大量であれば受診する。
塩素系漂白剤 酸素系漂白剤 台所用洗剤	症 状：口、のどから胃までただれて痛くなる。 吐き気、嘔吐を起こす。 処 置：吐かせて受診する 口の中をよく洗い、牛乳、卵白を取りすぐ受診する。

<p>マニキュ液 徐光液</p>	<p>症 状：のどの痛み、嘔気、嘔吐、頭痛、ふらつきが見られる。 気管に入ると激しく咳き込み肺炎を起こす可能性あり 処 置：少量でも受診する。 吐かせると気管に入りやすく危険。 いずれの場合も、NS に連絡し成分等を調べること。</p>
<p>煙 草</p>	<p>症 状：顔色が蒼白になり、入ったり、ぐったりする。 腹痛や下痢、よだれが多くでたり、脈が速くなることもある ひどい場合は、意識がなくなったり、痙攣を起こし、呼吸が出来なくなる 処 置：まず吐かせる。 水に浸っていたタバコを食べたり、その液を飲んだ場 合には、すぐ受診 4時間以上たっても、異常がなければ、大丈夫だが、 少しでも吐き気や、顔色が悪い場合は、受診する。</p>
<p>乾 燥 剤</p>	<p>シリカゲル 症 状：まれに口の中が爛れたり、粒状の場合、食道の壁に付 着して、炎症を起こすことがある。 処 置：コップ半分ぐらいの水、お茶、ジュース等の水分を取 り、様子を見る。</p> <p>生石灰 症 状：食べると口の中、のどが爛れて、ものを飲み込めなく なることがある。 また、胃の灼熱感、爛れ、出血等を起こすことがある。 また、目に入ると、痛みや爛れを引き起こし、失明す ることもある。 処 置：少量でも食べた場合、口の中をよく洗う。 牛乳、または卵白水を飲ませ、受診する。 吐かせてはいけない。 包装材料の表示を、必ず確認する。</p>

- ・転倒した場から無理に動かさない。
- ・床に横になっている場合、頭の下にバスタオルなど敷く
- ・バイタル、熱、外傷の有無のチェックと把握。
- ・骨折、頭を打っていないか確認。
- ・意識レベルの確認。
- ・特に異常が見つからない時は安静にして頂く。
- ・判断がつかない場合は当番 NS に連絡し、指示を仰ぐ。

症 状	対 応 方 法
骨折の場合	無理に動かさない。 NS に指示を仰ぐ。 固定できる部位、場合は、しいね等で固定する。 動かせない場合は 救急車で搬送。
頭を打った場合	意識の確認。 バイタル、熱の確認。
意識がない場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ NS に連絡し、指示を仰ぐ。 ・ 救急車にて搬送(緊急を要する場合は、NS に連絡せず搬送)
意識がある場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上が見られない場合は、次のことを注意し、様子を見る。 ・ バイタル、熱チェック。 ・ 30 分おき、状態が変わらなければ 1 時間おき、 ・ 2 時間おきと間隔をあけて様子を見る。(24 時間 ~ 48 時間)
意識低下がみられる場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意識がだんだんなくなっていく場合。 ・ 意識の観察は頭を打った後、24 時間経過観察する状況により、最低 6 時間は経過観察する <p>頻回の嘔吐確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 吐き気が強く、長時間続く場合。 ・ 何回も何回も嘔吐する場合。 <p>痙攣発作確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ てんかん様発作、ひきつけがあった場合。 <p>手足の麻痺確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手足に力が入らなくなったり、シビレを訴える場合。
頭痛の強い訴えがある場合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頭の打ち方が軽くても首をひねっていて、 ・ 後日思わぬ頭痛や頸部痛に悩まされることがありますので、少なくとも 3 日間はなるべく安静にしてください。 ・ 1 ヶ月ないし 2 ヶ月して忘れたところに調子が悪くなることもあるため、状態を把握しておく。

症 状	対 応 方 法
や け ど	<p>まずは服の上から冷やす。 冷たいタオルで冷やす (流水は皮がむけてしまうこともあるため、禁止。) 10分～20分冷やし、やけどの状態を見る。 やけどの程度により、状況を見てから必要であれば受診。 <u>水ぶくれの場合</u> *ゲンタシンか、VGを塗布する。</p>
切 り 傷	<p>傷の部位、状態確認 切り傷程度であれば、消毒し、軟膏(ゲンタシン・バラマイ)塗布、カット判などで保護 出血のある場合は、まず止血 皮膚が裂けてむけている場合は、くっつける。 傷が深い場合は、受診する。</p>
打 撲	<p>痛みの確認 腫れていないか、変色はないか 他に痛い所はないか 全身を確認、手足を動かしてみる等、無理のないように湿布(温・冷)を貼って様子を見る 痛み・腫れ、変色が強い場合はすぐに受診 何日か過ぎても痛みが治まらない、強くなる場合は受診する</p>